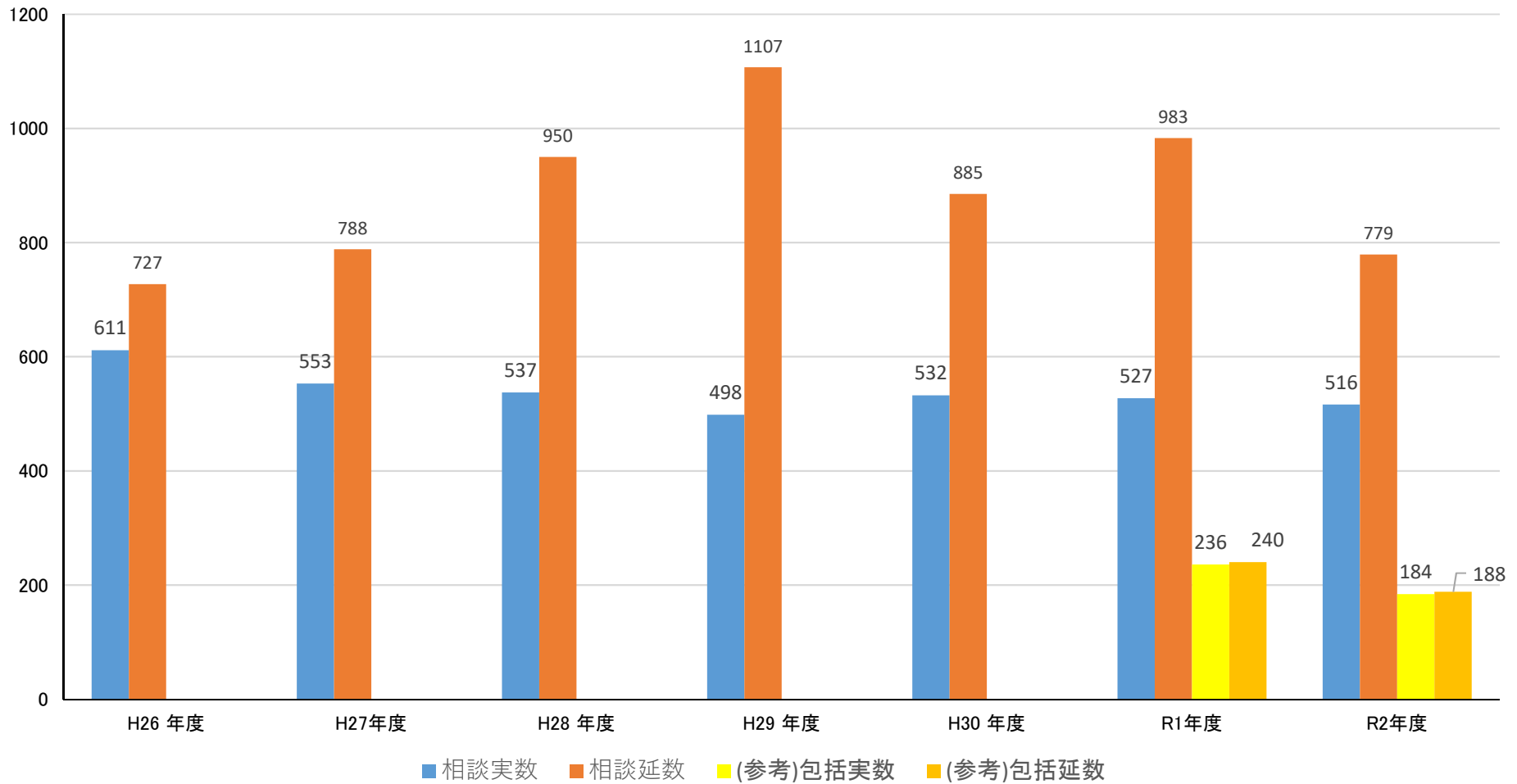


柏地域医療連携センター 相談状況

【令和2年4月～令和3年3月】

地域医療推進課

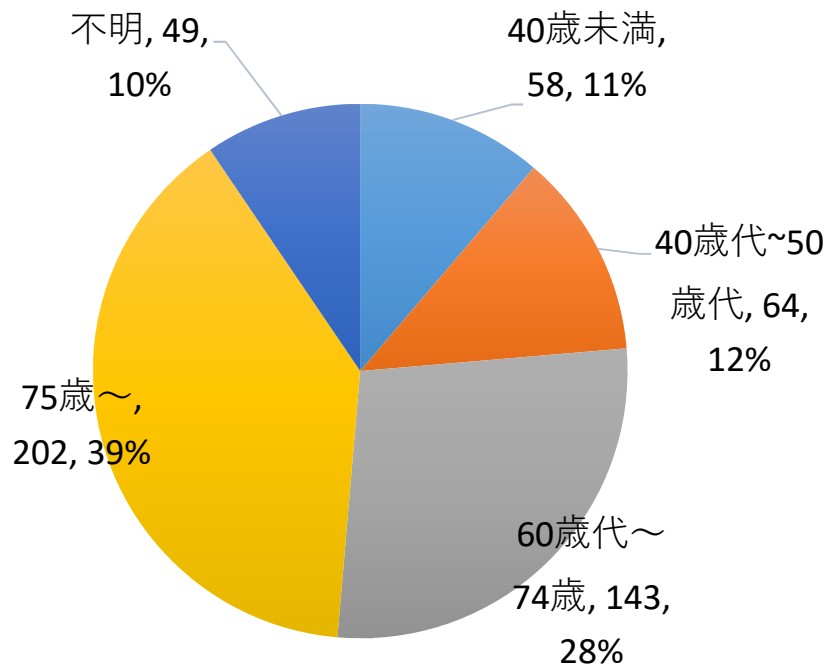
1 - ① 【相談全体】 相談件数



○相談実数は、ほぼ横ばいで推移している。

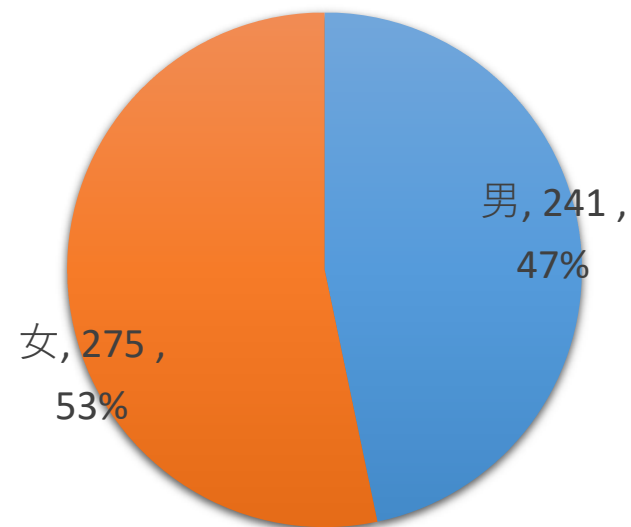
1-② 【相談全体】 相談対象者の状況

年齢構成



N = 516

相談者対象者性別

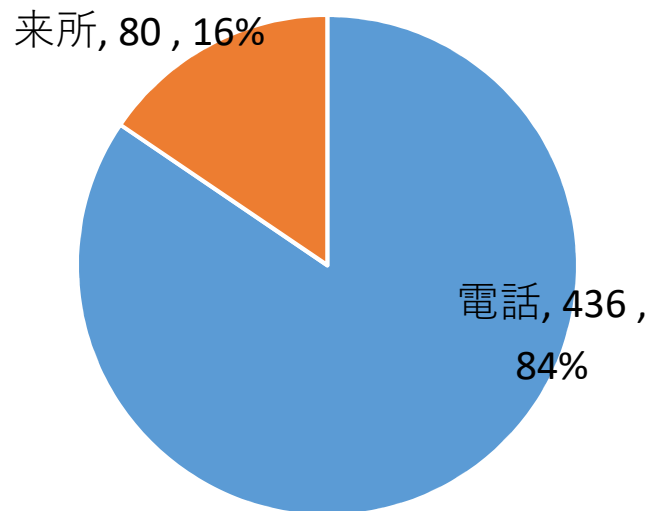


N = 516

○相談対象者は60歳以上が約7割を占めている。

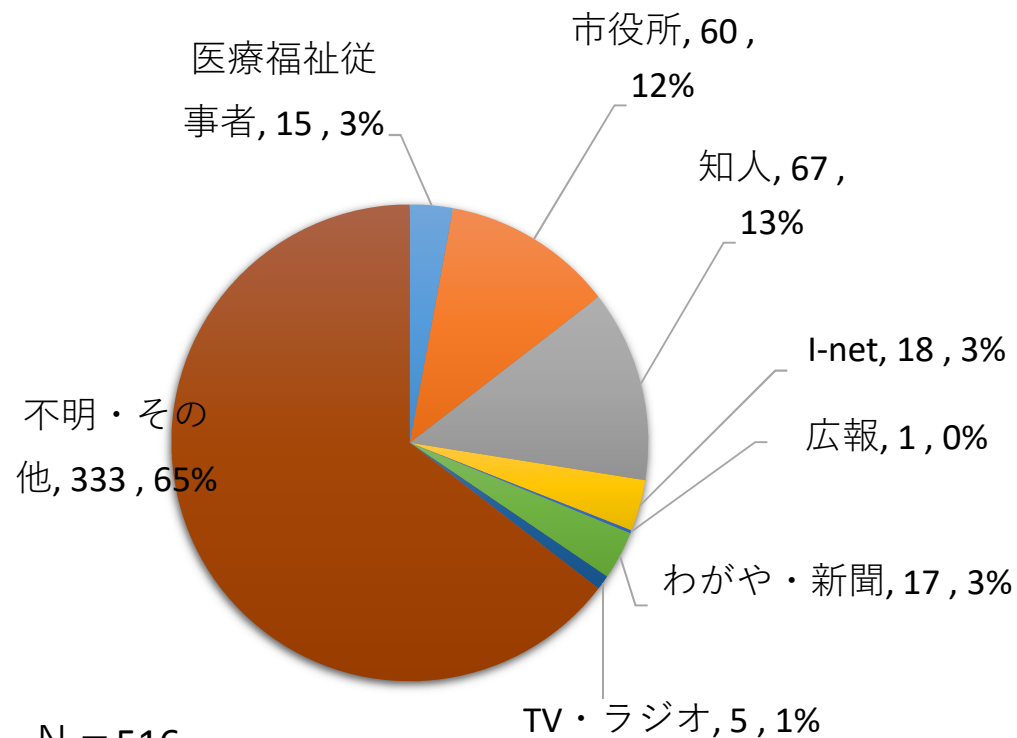
1-③ 【相談全体】 相談対象者の状況

相談形態



N = 516

連携センターの情報入手経路

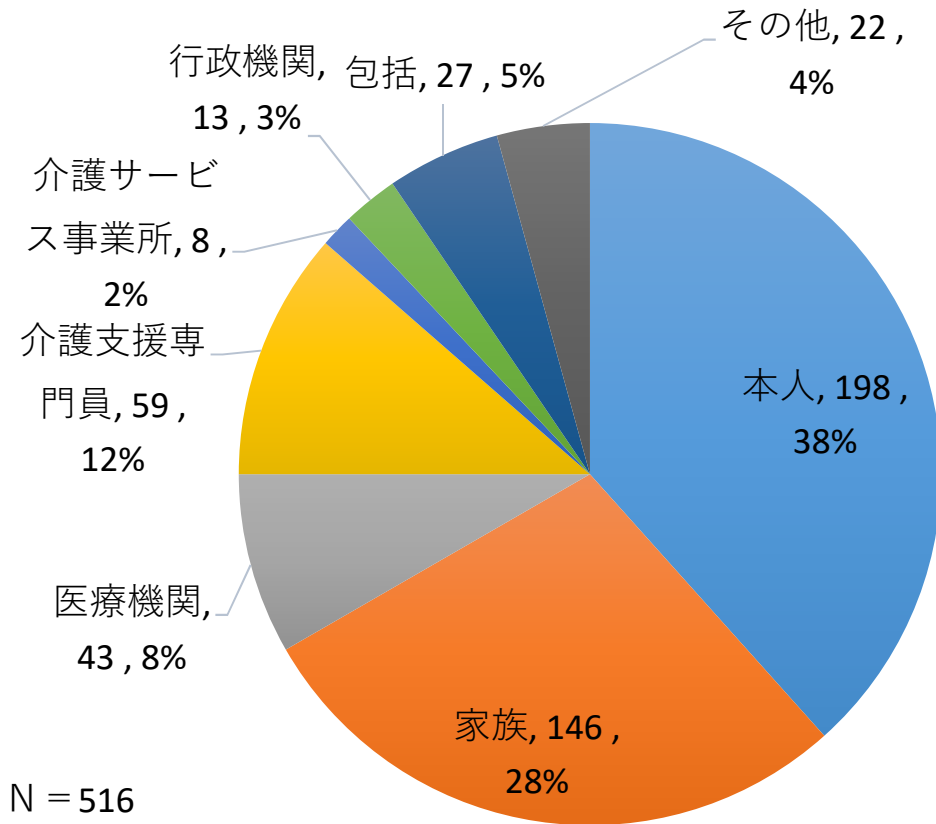


N = 516

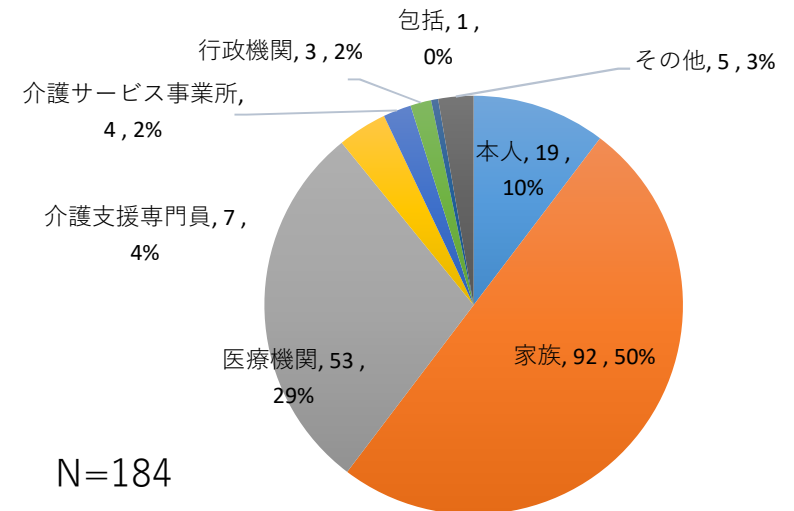
- 連携センターでの相談形態は、電話が約8割を占める
- 「相談窓口」であることの情報入手先は、「不明・その他」が半数以上を占める。
→電話による市役所の相談窓口のため、匿名性が高く、背景などの情報が得にくい。

1 - ④ 【相談全体】 相談者の状況

連携センター



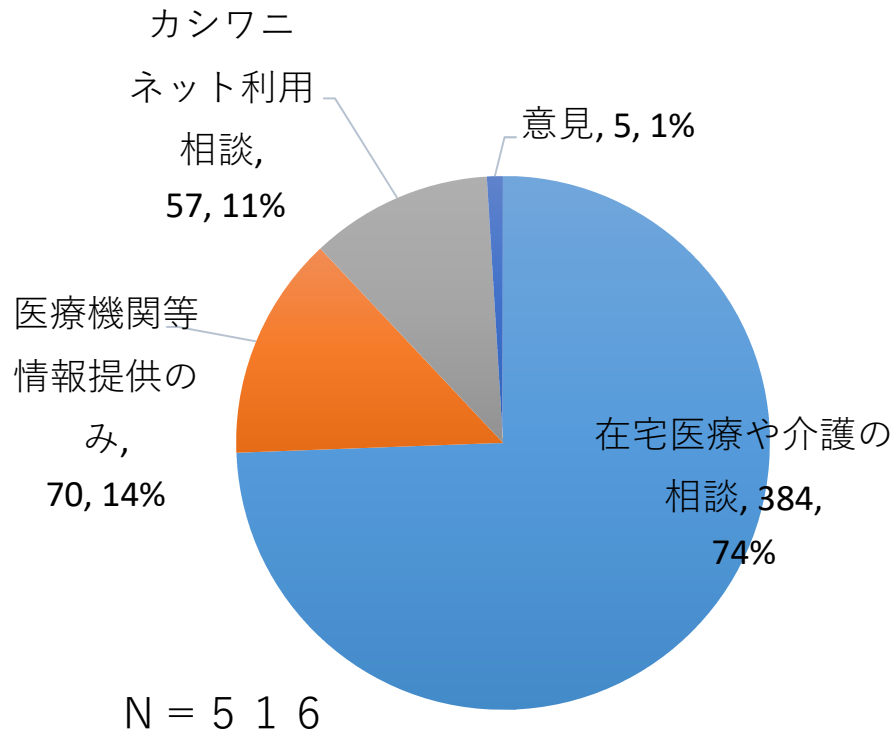
《参考》 包括支援センター (在宅医療に関する相談)



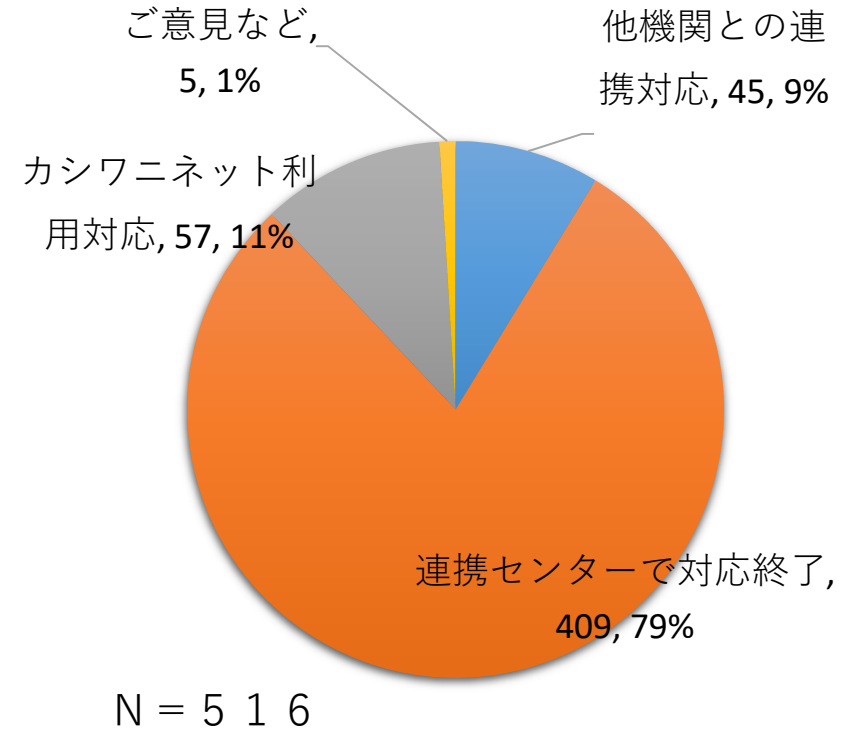
○本人・家族からの相談が7割、関係機関からの相談が3割であった。
 →市役所の窓口として市民からの相談を受けるだけでなく、多職種からの相談も広く受け、関係機関との調整および支援を行っている。
 包括とも相互連携し対応している。

1 - ⑤ 【相談全体】 相談内容および対応内訳

相談内容



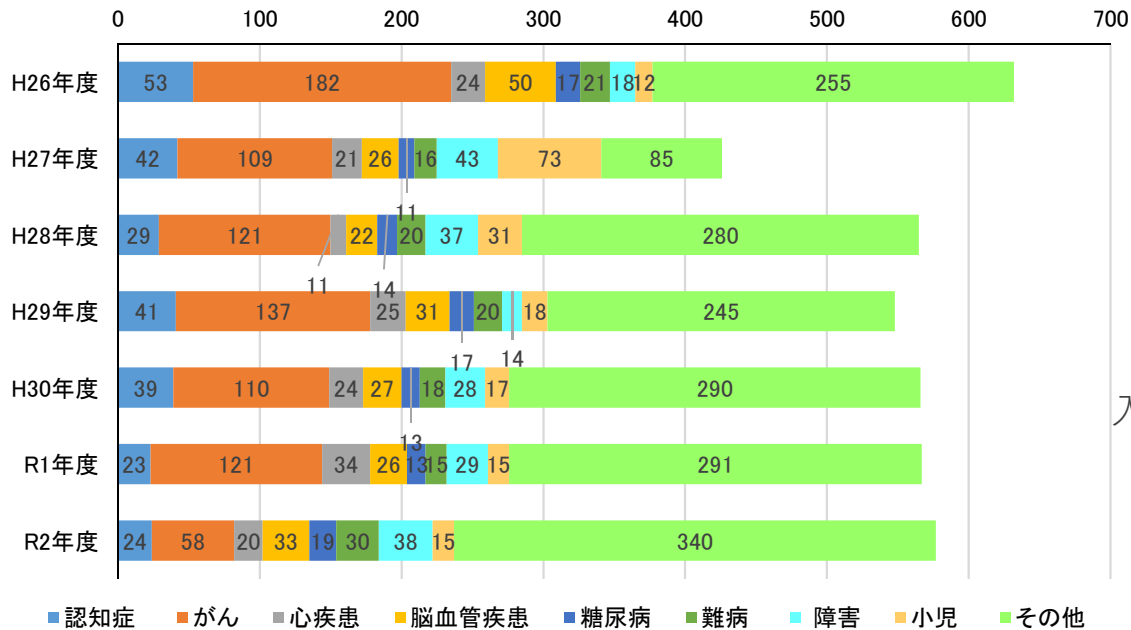
対応内訳



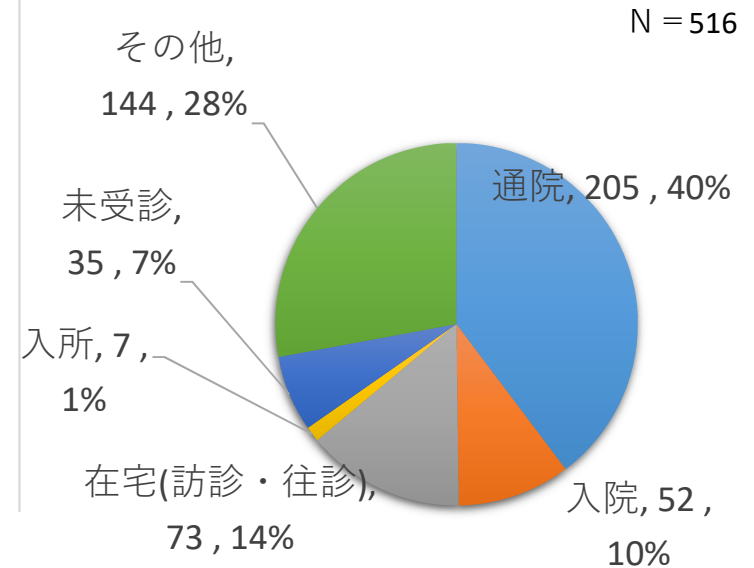
- 相談の内容は「在宅医療や介護」が、約7割だった。
- 対応の約8割が連携センターで終了していた。

1 - ⑥ 【相談全体】 相談対象者の疾患および治療場所

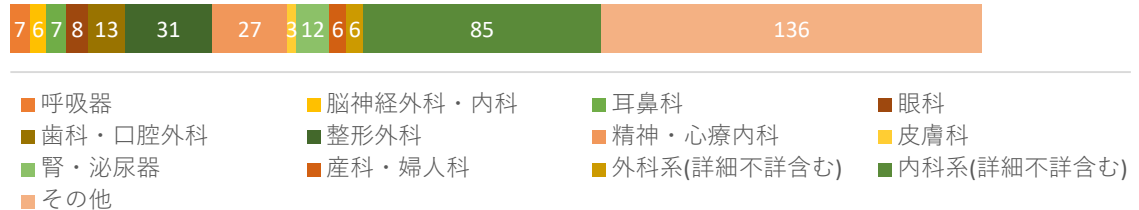
相談対象者の疾患(複数カウント)



治療場所(状況)



《参考》
R2年度「その他」の内訳
※複数カウント



- 「がん」が減り、内科的疾患(詳細不詳)の相談が85件だった。
- 相談対象者の約6割が、なんらかの治療を受けていた。
→ 担当医等に聞けない不安などの相談が多く、相談者の受け止め方を確認しながら担当医等に話をしていくように助言を行っている。

2-① 【相談レビュー】 概要および機能

目的：連携センターの総合窓口における相談技術の向上や相談機能の体制強化を図る。

① 課内レビュー 相談内容の情報共有・相談員のスキルアップと標準化

- ・全相談件数の報告・共有・対応検討

② 医師レビュー 専門的助言により相談の質の担保・相談員の人材育成

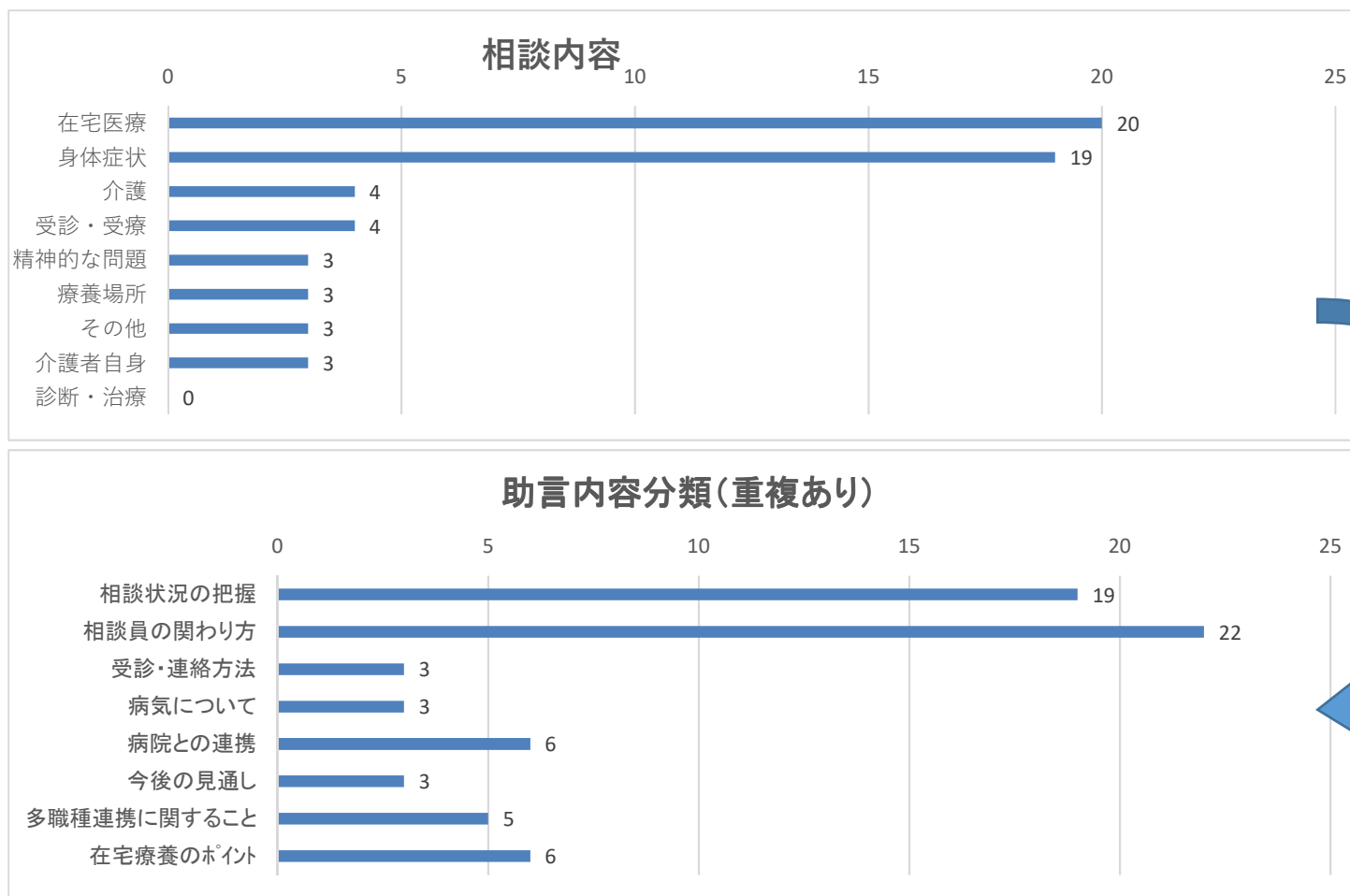
- ・柏市医師会（在宅・プライマリケア委員会）推薦医師を柏市の非常勤特別職員として委嘱
- ・「在宅医療と介護の相談」の中から助言を求めるものを相談（全体の約1割程度）

③ 柏市医師会「在宅・プライマリケア委員会」報告・共有

- ・毎月の相談状況と医師レビューの結果報告

◎ 在宅医療における「仕組みづくり」を検討し課題解決に繋ぐ

2-②【相談レビュー】医師レビュー相談および助言内容



○助言は、相談員の関わり方に関するものが多く、次に状況把握を通じて仕組みづくりへの検討を行っている。
→医師レビューを経て、高齢者施設への在宅医を調整する仕組みづくりに繋がった。

3 まとめ

◎R2年度 見えてきた課題

コロナ禍における、在宅と病院の連携強化

在宅と病院の連携体制づくり

新型コロナウイルス感染症流行により、人と人との接触が制限されている中で情報共有が難しい状況がある。

入退院時連携を、効果的かつ円滑に行っていく仕組みづくりが課題。



◎今後の方向性

○市民が気軽に相談できる窓口としての機能を維持

市民からの相談を受け止め、必要な支援や制度に繋げていくことができるよう地域包括支援センターやその他関係機関との連携を引き続き強化していく。

○医療・介護関係者への相談および連携支援を強化

専門的な助言や情報提供により、本人・家族への直接的な支援だけでなく、医療機関や職能団体との調整（後方支援機能の役割）を通して、多職種連携が円滑に行われるよう支援していく。

※連携センターと地域包括支援センターとの役割の違い

○在宅医療に係る課題抽出、必要な仕組みづくり

在宅医療推進の担当課として、市民および多職種の相談から抽出される課題を関係機関と共有し、これまで構築された繋がりを活かし、仕組みづくりに繋げていく。